

和歌山工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	英語総合
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	知能機械工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	[教科書] Big Dipper English Communication I (数研出版)、[副教材] Big Dipperワークブック [参考書] be Voyage to English Grammar (3rd Edition) 平賀正子ほか (いっすな書店)				
担当教員	濱野 公二				
到達目標					
1. 事前に予習をすれば、教科書の内容や教員が話す英語を聞いて、内容を的確に理解することができる。 2. 事前に準備をすれば、簡単な英語を使って自分の関心事について説明したり、自分の意見を伝えることができる。 3. 英語テキストを作っている規則を把握し、なぜそのような意味となるのかについて了解し、説明することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
Reading	基本的な語を用いて書かれた人物、場所、生活、文化などの紹介文、および組織や計画の経緯をまとめた100字程度の文章が理解できる。		事前に予習をし、辞書を使えば、英語で書かれた人物、場所、生活、文化などの紹介文、および組織や計画の経緯をまとめた100字程度の文章が理解できる。		辞書を用いても、英語で書かれた人物、場所、生活、文化などの紹介文、および組織や計画の経緯をまとめた100字程度の文章が理解することができない。
Listening	自分自身や自分の身の回りの事柄や、買い物や外食の際の指示や説明についての明確な英文を聞いて理解できる。		自分自身や自分の身の回りの事柄や、買い物や外食の際の指示や説明についての明確でゆっくりとした英文を聞いて理解できる。		自分自身や自分の身の回りの事柄や、買い物や外食の際の指示や説明についての明確でゆっくりとした英文を聞いても理解できない。
Writing	自分の経験、趣味や好き嫌いについて、辞書を利用しながら、簡単な語や基本的な表現を使って、また複数の文を用いて30字程度で書くことができる。		自分の経験、趣味や好き嫌いについて、辞書を利用しながら、簡単な語や基本的な表現を使って、また複数の文を用いて20字程度で書くことができる。		自分の経験、趣味や好き嫌いについて、辞書を利用しながらでも書くことができない。
Speaking	前もって用意した上で、日常生活や科学分野の身近なトピックや簡単な事実について、2～3分の英語スピーチをすることができる。		前もって用意した上で、日常生活や科学分野の身近なトピックや簡単な事実について、1分ほどの英語スピーチをすることができる。		前もって用意していても、日常生活や科学分野の身近なトピックや簡単な事実について、英語でスピーチをすることができない。
学科の到達目標項目との関係					
D					
教育方法等					
概要	1. 国際社会の一員として、将来エンジニアとして活躍するために、多様性を受容できる国際感覚を育む。 2. 中学校で学習した内容を発展させ、広くことばへの関心を高め、豊かな思考力、表現力を養う。 3. 視聴覚教材やアクティブ・ラーニングの機会を活用して、オーラル・コミュニケーション能力の向上を図る。				
授業の進め方・方法	事前学習： 必ず予習して授業に臨むこと。予習では、1) 新出単語や熟語の意味を辞書で調べ、2) 教科書の内容をノートに書き写し、3) 教科書の英文の日本語訳を試みる。日本語に翻訳できない箇所こそが、理解できていない箇所である。そのような箇所がある場合は、「自分はこの箇所の英語がわかっていない」という自覚を持って授業に臨み、不明箇所の理解に努めること。 授業内学習： 文法や新出単語の説明を理解し、予習で行った和訳の確認作業を行うこと。またリスニングとスピーキングのためにグループワークなどの演習に積極的に参加し、総合的に4技能の向上を図る。 事後学習： 授業の内容については必ず復習すること。復習とは、1) 90分の授業に際しては最低30分机に向かい、2) 教科書・ノートを広げて、ノートに写した授業の内容を確認し、3) 『参考書』で関連箇所を確認することである。また必ず音声CDを聞き、声に出して英文を音読し、身体全体で復習すること。				
注意点	単語などの小テストが予めアナウンスされている場合はそれに備えておくこと。授業を休んだ場合は、休んだときの授業の内容や、課題の有無などについて、クラスメートや担当教員に確認しておくこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション スタディサポートテスト	1年間の授業の進行と評価の仕組みについて理解する。	
		2週	LESSON 1 (Part 1)	「現在形」「過去形」「未来形」「現在進行形」「過去進行形」を理解し、和訳や英作文に应用することができる。	
		3週	LESSON 1 (Part 2 & 3)	「現在形」「過去形」「未来形」「現在進行形」「過去進行形」を理解し、和訳や英作文に应用することができる。	
		4週	LESSON 2 (Part 1 & 2)	「SVO」「SVC」の文型、「動名詞」「不定詞」を理解し、和訳や英作文に应用することができる。	
		5週	LESSON 2 (Part 3) FUNCTION 1	「SVO」「SVC」の文型、「動名詞」「不定詞」を理解し、和訳や英作文に应用することができる。	
		6週	LESSON 3 (Part 1 & 2)	「SVOO」「SVOC」の文型、「受動態」を理解し、和訳や英作文に应用することができる。	
		7週	LESSON 3 (Part 3)	「SVOO」「SVOC」の文型、「受動態」を理解し、和訳や英作文に应用することができる。	
		8週	LESSON 4 (Part 1 & 2)	「現在完了」「関係代名詞」「分詞の形容詞的用法」を理解し、和訳や英作文に使うことができる。	
	2ndQ	9週	前期中間試験 中間試験の返却と解説		
		10週	LESSON 4 (Part 3 & 4)	「現在完了」「関係代名詞」「分詞の形容詞的用法」を理解し、和訳や英作文に使うことができる。	

後期		11週	LESSON 5 (Part 1 & 2)	「形式主語」「比較表現」を理解し、和訳や英作文に使うことができる。
		12週	LESSON 5 (Part 3 & 4)	「形式主語」「比較表現」を理解し、和訳や英作文に使うことができる。
		13週	LESSON 6 (Part 1 & 2)	「would/used to」「過去完了」「SVO+to-不定詞」の用法を理解し、和訳や英作文に使うことができる。
		14週	LESSON 6 (Part 3 & 4)	「would/used to」「過去完了」「SVO+to-不定詞」の用法を理解し、和訳や英作文に使うことができる。
		15週	前期期末試験	
		16週	期末試験の返却と解説	
	3rdQ	1週	LESSON 7 (Part 1)	「分詞構文」「SVOC」「SVOC」文型を理解し、これを和訳や英作文に使うことができる。
		2週	LESSON 7 (Part 2 & 3)	「分詞構文」「SVOC」「SVOC」文型を理解し、これを和訳や英作文に使うことができる。
		3週	LESSON 7 (Part 4)	「分詞構文」「SVOC」「SVOC」文型を理解し、これを和訳や英作文に使うことができる。
		4週	LESSON 8 (Part 1)	「関係副詞」「形式主語」「つなぎ表現」を理解し、これを和訳や英作文に使うことができる。
		5週	LESSON 8 (Part 2 & 3)	「関係副詞」「形式主語」「つなぎ表現」を理解し、これを和訳や英作文に使うことができる。
		6週	LESSON 8 (Part 4)	「関係副詞」「形式主語」「つなぎ表現」を理解し、これを和訳や英作文に使うことができる。
		7週	FUNCTION 3 FUNCTION 4	日常的な英会話表現を身につける。
		8週	後期中間試験 後期中間試験の返却と解説	
	4thQ	9週	LESSON 9 (Part 1)	「助動詞を含む受動態」「関係副詞」「仮定法過去」を理解し、これを和訳や英作文に使うことができる。
		10週	LESSON 9 (Part 2 & 3)	「助動詞を含む受動態」「関係副詞」「仮定法過去」を理解し、これを和訳や英作文に使うことができる。
		11週	LESSON 9 (Part 4)	「助動詞を含む受動態」「関係副詞」「仮定法過去」を理解し、これを和訳や英作文に使うことができる。
		12週	LESSON 10 (Part 1)	「間接疑問」「関係代名詞what」「強調構文」を理解し、これを和訳や英作文に使うことができる。
		13週	LESSON 10 (Part 2 & 3)	「間接疑問」「関係代名詞what」「強調構文」を理解し、これを和訳や英作文に使うことができる。
		14週	LESSON 10 (Part 4)	「間接疑問」「関係代名詞what」「強調構文」を理解し、これを和訳や英作文に使うことができる。
		15週	後期期末試験	
		16週	後期期末試験の返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前1
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前1
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
		英語運用能力向上のための学習	英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	

				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
評価割合						
		定期試験		平常点(小テストなど)		合計
総合評価割合		70		30		100
基礎的能力		70		30		100